

- 県作物研究センターや現地ほ場に水田センサを設置し、温度や水位のデータを取得した。
- このデータを活用することで、水管理の省力化や品質向上に繋がる水管理方法の把握と実践が期待される。

＜実証の取り組みイメージ＞



県作物研究センターのコシヒカリ生育調査ほ場に水田センサを設置し、気象データと水田センサとの整合、端末機の操作性等を検証した。併せて、現地ほ場にも設置することで、現地での実用性を検討した。

実証の成果

- 操作性が向上。
 - ・平成27年に試験したものに比べ、センサー部分の改良等により設置が容易となった他、温度の測定精度も向上。



- ほ場単位でのデータの活用により、栽培の高精度化が期待できる。
 - ・従来、アメダスデータ等に頼っていた出穂後の積算温度による収穫適期のめやすの

- 把握が、ほ場単位で可能である。
 - ・水位データの収集が容易となったことで、効率的かつ効果的な水管理方法の検証や振り返りが、ほ場ごとで可能である。

普及指導員の活動

- センサ設置圃場を現地研修会で紹介
- 今後の指導に役立てるため、データを蓄積・分析。
- 普及適応可能性を検討。

【参考データ(現地ほ場)】

図1 降水量と水位(水田センサ測定値)

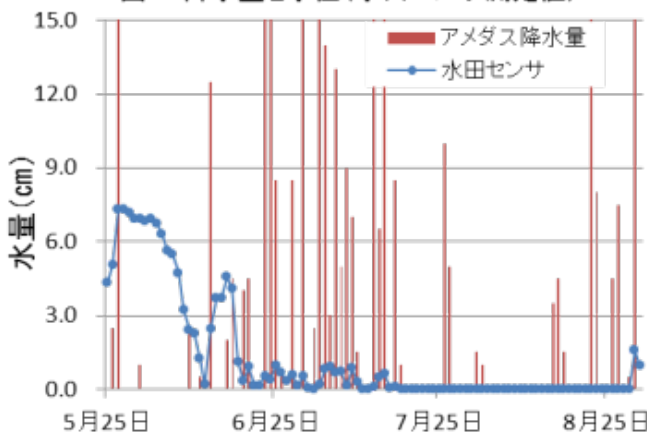


図2 平均気温の推移

